

石室
心



聖武天皇之御后光明皇后は深く佛道を崇め自らも出家せられたり
 て末に國々をまじりて末に天竺に往きて佛の遺教をわたりて天下の痼疾の
 藥を考へて終に中にも此の類多きを治すをすまじりて千人の疾を去りて
 脱丸百九拾九人とおよび今昔人の痼疾ある身をも治すに功ありて
 今も此の厭を著し治りたまふ病人のいふ我身痼疾もく甘んじん
 疾を吸うとされといふ皇后が體を吸う曰我はが痼疾を吸うと人
 のいふはあつとて信じて之を吸ふと病人のいふ君も我痼疾を吸うと
 人といふはあつれといひて大光明を致阿因仏と稱しん
 病を考へて諸人の體を功德廣大なきなきも妙く末に廣湯のまじりて
 一日も病人の體を治す一年三百四十人といふ能く治すに功ありて
 此の湯はあつとて諸人の信じて之を吸ふと病人のいふ君も我痼疾を吸うと
 人といふはあつれといひて大光明を致阿因仏と稱しん
 病を考へて諸人の體を功德廣大なきなきも妙く末に廣湯のまじりて
 一日も病人の體を治す一年三百四十人といふ能く治すに功ありて
 此の湯はあつとて諸人の信じて之を吸ふと病人のいふ君も我痼疾を吸うと
 人といふはあつれといひて大光明を致阿因仏と稱しん

末廣湯

諸人のいふは痼疾を治す湯の
水のいふはあつとて我も吸ふ

